

太宰府市俳句ポスト第百二十一回入選者

令和五年十一月十五日〜令和六年二月十三日

選者 阿比留 初見

神苑の真白き梅に歩を戻す

福岡市 今村 弘子

祝ぎ事を明日に控へて菊活くる

大野城市 西山 光法

菊に立ち菊を離れて会話継ぐ

福岡市 吉田 文代

冬ぬくし学びの庭の静雲碑

北九州市 元田 品子

屋台出て歩く年の瀬誕生日

京都府 辻村 恭吾

白鷺のポーズ決め込む冬日和

春日市 西津 稔勝

菅公の心映して梅ま白

福岡市 飯田 絹子

曲水の庭の静寂冴返る

福岡市 阿部 弘子

菊を観る人のあゆみに入りにつけり

太宰府市 入江 眞己子

冬鳥や坂道多き山の宮

春日市 永利 五十鈴

誕生日一緒に祝ふ十二月

福岡市 山本 藍子

息白く梅ヶ枝餅の焼くる待つ

筑紫野市 寒竹 賢次

飛梅に一際光る雨霰

朝倉市 味酒 ふじ子

散紅葉幼き心をもう一度

千葉県 小野 友莉香

冬紅葉神池に深く照り映ゆる

太宰府市 中島 祝乃

はじめてのおみくじねがいをこめひいた

北九州市 今村 悠太 八歳

寒いけどしつかりあそぶぞださいふ園

長崎県 井山 莉里花 九歳

お正月みんなでおまいり天まんぐう

太宰府市 鱒坂 詩織 九歳

白い空いまにも雪がふりそうだ

東京都 松本 仁菜 十一歳

梅ヶ枝餅寒さふつとぶ甘さかな

大分県 矢野 義博 十四歳